

## 安全データシート

改訂日 2018年10月30日

## 1. 製品及び会社情報

化学品の名称 塩化ヒドラジニウム(2+)  
 会社名 米山薬品工業株式会社  
 住所 大阪市中央区道修町2丁目3番11号  
 電話番号 (06)6231-3555(大阪・本社)  
 (03)3246-2311(東京) (0268)22-5910(上田)  
 (052)504-2221(名古屋) (082)537-0290(広島)  
 整理番号 AD1122

## 2. 危険有害性の要約

## GHS分類

## 健康に対する有害性

急性毒性(経口): 区分4  
 皮膚腐食性及び皮膚刺激性: 区分1  
 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性: 区分1  
 皮膚感受性: 区分1  
 生殖細胞変異原性: 区分2  
 発がん性: 区分2  
 特定標的臓器毒性(単回ばく露): 区分1(中枢神経系, 肝臓, 腎臓)  
 特定標的臓器毒性(反復ばく露): 区分1(肝臓, 神経系, 消化管, 腎臓)  
 吸引性呼吸器有害性:  
 水生環境有害性(急性): 区分1  
 水生環境有害性(長期間): 区分1

## 環境に対する有害性

\* 記載のないものは「分類対象外」, 「分類できない」または「区分外」。

## ラベル要素

## 絵表示又はシンボル



## 注意喚起語

## 危険有害性情報

危険  
 重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷  
 重篤な眼の損傷  
 飲み込むと有害(経口)  
 遺伝性疾患のおそれの疑い  
 発がんのおそれの疑い  
 臓器の障害(中枢神経系, 肝臓, 腎臓)  
 長期又は反復暴露による臓器の障害(神経系, 肝臓, 呼吸器, 腎臓)  
 アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれ  
 水生生物に非常に強い毒性

## 注意書き

【安全対策】  
 すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。  
 粉じんまたはミストを吸入しないこと。  
 取り扱い後はよく手を洗うこと。  
 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。  
 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。  
 環境への放出を避けること。  
 保護手袋および保護眼鏡/保護面を着用すること。  
 【応急措置】  
 飲み込んだ場合: 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。気分が悪い時は、医師に連絡すること。  
 皮膚(または毛)に付着した場合: 直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと/取り除くこと。多量の水と石鹸で洗うこと。  
 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易にはずせる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。  
 暴露または暴露の懸念のある場合: 医師の診断/手当てを受けること。  
 直ちに医師に連絡すること。  
 気分が悪いときは、医師の診断/手当てを受けること。  
 皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断/手当てを受けること。  
 汚染した衣類は再使用する場合には洗濯すること。  
 漏出物を回収すること。

## 【保管】

容器を密閉して涼しく換気の良い場所で施錠して保管すること。

## 【廃棄】

内容物／容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業に依頼して廃棄すること。

該当情報なし。

他の危険有害性

## 3. 組成、成分情報

化学品・混合物の区別

単一物質

化学名

塩化ヒドラジニウム(2+)

別名

塩酸ヒドラジン, ヒドラジン二塩酸塩

化学式

$N_2H_6Cl_2$

CAS RN

5341-61-7

含有量

95%以上

官報公示整理番号(化審法、安衛法)

(1)-374 (ヒドラジン) (2)-215 (塩化水素) / 公表

GHS分類に寄与する不純物及び安定化合物

該当情報なし。

## 4. 応急措置

吸入した場合

被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。

直ちに医師の手当を受ける。

皮膚に付着した場合

直ちに汚染された衣類をすべて取り除き、製品に触れた部分を水で洗い流した後石鹼を用いて十分に洗浄する。

直ちに医師の手当を受ける。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続ける。

直ちに医師の手当を受ける。

飲んだ場合

口をすすぐ。無理に吐かせない。

直ちに医師の手当を受ける。

予測できる急性症状及び遅発性症状の

最も重要な兆候症状

飲み込むと有害。皮膚感作性を生じるおそれの疑い。皮膚・眼に対して腐食性の疑い。人への長期毒性の疑い。

応急処置をするものの保護

該当情報なし。

医師に対する特別な注意事項

該当情報なし。

## 5. 火災時の措置

消火剤

粉末, 泡, 炭酸ガス, 水噴霧

使ってはならない消火剤

該当情報なし

特有の危険有害性

燃焼により、刺激性、腐食性、毒性のガスを発生する。

消火水が汚染を引き起こすおそれがある。

特有の消火方法

危険でなければ火災区域から容器を移動する。

移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。

消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。

消火を行う者の保護

消火活動は風上から行い、有害なガスの吸入を避ける。

適切な空気呼吸器、防護服(耐熱性)を着用する。

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

作業の際には適切な保護具(保護手袋、保護眼鏡、保護衣、防塵マスクなど)を着用し風上から作業して、風下の人を退避させる。

全ての着火源を取り除く。

直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。

関係者以外の立入りを禁止する。

密閉された場所に立入る前に換気する。

環境に対する注意事項

河川等へ排出され環境への影響を起こさないように注意する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

粉塵が飛散しない方法で回収し、残りは希釈した次亜塩素酸ナトリウム水溶液で少しずつ酸化分解させ、更に重曹等で中和する。

危険でなければ漏れをとめる。

排水溝、下水溝、地下室、あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策(局所排気、全体換気等)

吸い込んだり、目、皮膚および衣類に触れないように、適切な保護具を着用する。

取り扱い場所には局所排気装置または全体換気装置を設置する。

使用後は容器を密封する。

安全取扱注意事項

火気厳禁、衝撃注意。

接触回避 衛生対策	裸火、スパーク、高温のものとの接触を避ける。 強酸化剤との接触を避ける。 漏れ、あふれ、飛散しないようにし、みだりに粉塵を発生させない。 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、または引きずる等の粗暴な扱いをしない。 熱、裸火、スパーク、高温、強酸化剤との接触を避ける。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
保管 安全な保管条件	吸湿性があるので使用後は密栓すること。 遮光容器を使用すること。 日光、熱、裸火、スパーク、静電気、湿気、衝撃を避けること。 換気のよい乾燥した冷所に、直射日光を避けて保管する。 消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。
容器包装材料	
8. 暴露防止及び保護措置	未設定
管理濃度	未設定
許容濃度	未設定
日本産業衛生学会	この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。 ばく露を防止するため、装置の密閉化又は局所排気装置を設置すること。
ACGIH	
設備対策	
保護具	防塵マスク又は簡易防塵マスクを着用する。 ゴム手袋を着用する。 ゴーグルを着用する。 作業衣を着用する。
呼吸器の保護具	
手の保護具	
眼の保護具	
皮膚及び身体の保護具	
9. 物理的及び化学的性質	白色の結晶 該当情報なし 該当情報なし <1(2%水溶液) 198℃(融点) 該当情報なし 該当情報なし 該当情報なし 該当情報なし 該当情報なし 該当情報なし 該当情報なし 1.42 水によく溶け、アルコールにわずかに溶ける。 該当情報なし 該当情報なし 200℃ 該当情報なし
外観(物理的状態、形状、色等)	
臭い	
臭いの閾値	
pH	
融点・凝固点	
沸点、初留点及び沸騰範囲	
引火点	
蒸発速度(酢酸ブチル=1)	
燃焼性(固体、気体)	
燃焼又は爆発範囲の上限・下限	
蒸気圧	
蒸気密度	
比重(相対密度)	
溶解度	
n-オクタノール/水分係数	
自然発火温度	
分解温度	
粘度(粘性率)	
10. 安定性及び反応性	通常の取扱いにて安定である。 強衝撃、強熱により発火、爆発の危険性がある。 強酸化剤と混触すると反応することがある。 日光、熱、裸火、スパーク、静電気、湿気、衝撃 強酸化剤、塩基類 窒素酸化物、塩化水素ガス
反応性、化学的安定性	
危険有害反応可能性	
避けるべき条件	
混触危険物質	
危険有害な分解生成物	
11. 有害性情報	経口: ラット LD <sub>50</sub> 387mg/kg 皮膚に対して腐食性、刺激性がある。 眼に対して腐食性、刺激性がある。
急性毒性	
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	

呼吸器感作性又は皮膚感作性	呼吸器: 知見なし。 皮膚: NITE初期リスク評価書 No.73 (2005)のヒトへの健康影響の記述にて、「感作性については、ヒドラジンとその塩はヒトに接触アレルギーを発症する」という報告が得られている。また、日本産業衛生学会では、皮膚感作性「第2群」と分類している。
生殖細胞変異原性	ヒドラジン塩酸塩のマウススポット試験及びマウス小核試験は陽性である。
発がん性	ヒドラジン塩酸塩についての知見なし。ただし、ヒドラジンはIARCで「グループ2B:ヒトに対して発がん性を示す可能性がある。」に分類されている。
生殖毒性	ヒドラジン塩酸塩を妊娠ラットに妊娠期間中経口投与(8 mg/kg/day)した結果、母動物に体重増加抑制、死亡例がみられる用量で胎児毒性(体重の減少、蒼白化及び浮腫)がみられた。
特定標的臓器毒性(単回暴露)	ヒドラジン塩酸塩についての知見なし。ただし、ヒドラジンについては、ヒトについては「急性ばく露によって中枢神経系、肝臓、腎臓に影響を及ぼすことが知られている。」(環境省リスク評価第1巻(2002))の記述があることから、中枢神経系、肝臓、腎臓が標的臓器と考えられた。
特定標的臓器毒性(反復暴露)	ヒドラジン塩酸塩についての知見なし。ただし、ヒドラジンについては、ヒトについて「肝毒性、神経症状、心臓症状」、「黄疸、死後の剖検で重度腎炎、尿細管壊死、糸球体腎炎、限局性肝細胞壊死がみられた。」(NITE初期リスク評価書 No.73 (2005))、「胃炎、振戦、失眠、言動の一貫性喪失、黄疸、肝臓の肥大で易触診、血中ビリルビン量の上昇、血中クレアチニン量の上昇、蛋白尿、剖検所見:重度の尿細管壊死」(IARC (1987))等の記述があることから、肝臓、神経系、消化管、腎臓が標的臓器と考えられた。なお、消化管への影響については、経皮ばく露試験での影響のため、標的臓器として採用した。
吸引力呼吸器有害性	知見なし。
12. 環境影響情報(ヒドラジンのデータ)	
生態毒性	急性: 藻類(セテナストラム)72時間 $ErC_{50} = 0.19\text{mg/L}$ 長期間: 急性毒性があり、生物蓄積性が低いと推定されるもの( $\log Kow = -2.07$ )、急速分解性がない(ヒドラジンのBODによる分解度:2%から類推)ことから、長期的影響により水生生物に非常に強い毒性であると判断される。
残留性・分解性	急速分解性がない(BODによる分解度:2%)
生体蓄積性	生物蓄積性が低いと推定される。( $\log Pow = -2.07$ )
土壤中の移動性	該当情報なし。
オゾン層への有害性	当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。
13. 廃棄上の注意	
残余廃棄物	廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。 廃棄物の処理を依頼する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。
汚染容器及び包装	容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。
14. 輸送上の注意	
国際規制	
国連番号	1759
品名(国連輸送名)	その他の腐食性物質、固体
国連分類	8
容器等級	II
国内規制	
陸上輸送	消防法の規定に従う。
海上輸送	船舶安全法の規定に従う。
航空輸送	航空法の規定に従う。
輸送又は輸送手段に関する特別な安全対策	食品や飼料と一緒に輸送してはならない。 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に進行。 重量物を上積みしない。
応急措置指針番号	154
15. 適用法令	
化審法	優先評価化学物質
化学物質管理促進法(PRTR法)	該当しない

毒物及び劇物取締法  
消防法  
労働安全衛生法  
船舶安全法  
航空法

該当しない  
危険物第5類ヒドラジンの誘導体(第2種自己反応性物質)  
健康障害防止指針公表物質  
腐食性物質  
腐食性物質

16. その他の情報

参考文献

NITE-CHIRP(製品評価技術基盤機構HP)  
16615の化学商品(化学工業日報社)  
職場のあんぜんサイト(厚労省HP)  
The Sigma-Aldrich Library of REGULATORY and Safety Data  
The Sigma-Aldrich Library of Chemical Safety Data Edition II  
Merck Index 14th.  
化学品安全管理データブック(化学工業日報社)  
記載内容のうち、含有量、物理/化学的性質等の数値は保証値ではありません。危険・有害性の評価は、現時点で入手できる資料・情報 データ等に基づいて作成しておりますが、すべての資料を網羅した訳ではありませんので取り扱いには十分注意して下さい。